



仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会
 会長 見上一幸
 仙台市青葉区錦町1-3-9
 (市役所錦町庁舎3F)
 電話 022-224-2581
 FAX 022-302-3406



年頭のご挨拶

会長 見上一幸



新春のお喜びを申し上げます。

今年は「子年」にあたり、再び新しい十二支のサイクルがスタートする年でもあります。次のサイクルは Society 5.0の時代、AIの進化の中で予想もできないほどに世界は変化するのかも知れません。

現代はグローバル化の中で、いろいろな社会や地域で分断化が顕在化するとともに、気候変動をはじめとして私たちを取り巻く環境は激しく変化し、持続可能な社会の構築を脅かすと思われる事象も数多くあります。そのための取り組みとして、国連教育科学文化機関（UNESCO）は現在、アフリカとジェンダーという2つの優先課題を抱える中、“誰も置き去りにしない”を理念に掲げ、2030年までに達成すべき持続可能な開発目標（SDGs）を推進しています。

したがって、このUNESCOの機能を市民レベルで支援しようとする我々ユネスコ協会にとっても、たいへん重要な10年となることでしょう。仙台ユネスコ協会は、世界のおよそ3,800のユネスコ協会のオリジンの地として、「平和」と「持続可能な社会」に向けて

一層の努力をしなければなりません。ここでもういちどユネスコ憲章の“平和”を再確認し、単に学ぶだけではなく行動に移していかなければなりません。

私たち仙台ユネスコ協会はこれまで、仙台市のご理解の下に仙台市役所錦町庁舎の一部をお借りして活動してまいりましたが、いよいよ新たな場所を拠点に歩むこととなります。私たちの活動の拠点である新しい事務所は、まさにこのような重要な時期にオープン予定です。

ネズミ年は、一説に「寝ず身」ともいわれ、真面目に着実に働くことを意味するようです。現在の私たち大人が、子供たちが大人になる時代に困ることのないように、しっかり現在の責任を果たさなければなりません。世界平和の構築、持続可能な社会の構築に向かって志を同じくする仲間を増やし、集い、共に力を合わせて活動してまいりましょう。

今年もどうぞよろしくお祈りします。

これからの行事と催事

2020年度 定期総会

■日時：5月28日（木）（予定）
 ■場所：ユネスコ事務所

第76回 日本ユネスコ運動 全国大会

■日時：7月4日（土）
 ■場所：山口県宇部市

民間ユネスコ運動の日

■日時：7月下旬予定
 ■場所：未定

2020年度 東北ブロック・ユネスコ活動研究会

■日時：9月13日（日）
 ■場所：新潟県新潟市

以下の行事も予定しています

- ユネスコ子どもキャンプ
日時：8月8日（土）～10日（月）
 - ユネスコ子ども絵画展
（応募締切：9月）
 - ユネスコカレッジ講座（春・秋）
 - スタディツアー
 - 中学生ユネスコカレッジ
- 会報・HP・フェイスブックなどで随時お知らせいたします。

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、1947年（昭和22年）7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。



10～1月の活動実績



世界平和と防災プロジェクト～被災地から未来につなぐSDGs～

2019/11/8～13



▲「仙台とキリバスをつなぐもの～国連仙台防災枠組みと気候危機～」の講演者ケンタロ・オノ氏、仙台で働く外国人の方、仙台ユネスコ協会メンバーで「未来につなぐ」をテーマにディスカッションし、クロージング。ビデオメッセージを寄せたパチャウリ博士と記念撮影

11月8日（金）～13日（水）の6日間、仙台ターミナルビル様から特別協賛をいただき、エスパルススクエアを会場に、「世界平和と防災プロジェクト」を開催しました。郡和子仙台市長、若生裕俊富谷市長、小沢晴司環境省東北地方環境事務所長からメッセージをいただき、仙台ユネスコ協会あげてのプロジェクトとして、第2委員会がSDGsの啓発を、第3委員会は国際交流を、合同で企画しました。

多くの皆様にご協力いただいたステージ発表には、観客が周囲のギャラリーにまで溢れた演奏会をはじめ、会期中延べ500名を越える方々が足を止めてくださいました。



▼中尊寺一山金剛寺副住職 破石晋照氏。もう一つの顔、狂言師を髣髴とさせる語り口での講演「中尊寺～託された想い～」

▼クリスマスの雰囲気漂う会場の様子

▲環境省東北地方環境事務所 自然保護官 山口遥香氏による記念講演「みちのく潮風トレイル」

◀タタル・ヘンリ氏と木下順子氏の息の合った見事な演奏に会場は魅了されました

また、SDGsの17の目標への関心度調査には、170名の方が参加しました。カラフルなロゴマークを見て、「知ってる！学校で勉強した」という声が高校生、大学生から聞かれた反面、大人は「初めて知った」と言う方が多かったように思いました。一般にはまだまだ浸透していないSDGsの啓発の必要性を考えさせられた一方で、若い世代への浸透が進んでいること、オープニング演奏で会場を盛り上げた聖ウルスラ学院英智高校や活動発表をした富谷高校の若い世代の活躍に、未来への希望を感じました。（内藤 記）

ユネスコカレッジ 地域遺産の貞山運河を学ぶ～御舟入堀と塩竈～

2019/10/16～17



▲籬（まがき）島の籬神社前で集合写真（39人参加）
籬島（曲木島）は、塩竈の八島あるいは十二島に挙げられる島のひとつ。凝灰岩の崖になっており松が茂る歌枕の地。わがせこを都にやりて塩釜の籬の松ぞ恋しき（古今和歌集）

温故知新という言葉があるように、その土地の歴史を探求することで地域の特徴を再発見することができます。宮城県には数多くの誇るべき地域遺産があります。歴史から学び未来に繋げる活動はユネスコの大事な活動のひとつです。

今年のカレッジは「地域遺産の貞山運河を学ぶ」3回目。～御舟入堀と塩竈～を学習しました。

初日は座学。日本考古学協会会員高橋守克氏「貞山運河とその役割」、鹽竈神社博物館学芸員主事茂木裕樹氏「綱村公と鹽竈神社」お二人からお話を伺いました。



▲講師のお二人
左：茂木裕樹氏 右：高橋守克氏

▲見上会長の開会挨拶
台風19号の被害を心配していました

▲お舟入り堀の橋本橋近くの堤防で高橋講師から当時の状況を聞く受講者。資料を片手に皆さん熱心な表情です

▲高砂神社 蒲生地区の鎮守として創建されたと言われます。東日本大震災津波の被害に遭ったが鳥居、社殿は流出を免れ、近くに移転、復旧されています

翌日は貸切バスで現地を踏査。蒲生高砂神社、多賀城浜浜緑地公園の薬師堂、弁天沼、大代の橋本橋界隈、塩釜の籬島（曲木島）、東園寺、御釜神社、旧あびや旅館、鹽竈神社と博物館を講師の先生と一緒に一日かけて廻り贅沢で盛り沢山の研修内容でした。

受講者は2日間で80名、初めての人、毎年楽しみに待って下さる歴史好きの常連さん、そして今回は在仙の中国人女性2名参加で国際色豊かなカレッジになりました。

多くの方々から「大変良かった!」とお褒めの言葉戴き次回の企画に弾みがつきました。（鈴木かつら 記）

**ユネスコ子ども「絵画展」
第22回
絵で伝えよう！
わたしの町の
たからもの**

1月7日(火)～11日(土)、ユネスコ子ども絵画展 第22回「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」が東北電力グリーンプラザアークホールで開催されました。

今年は、小学校38校、中学校11校の参加があり、261点の応募がありました。会場にすべての作品を展示

し、作者のメッセージもスライドショーにより作品と共に紹介しました。

子ども絵画展も22回と回を重ね、年々応募作品も増えてきています。

期間中1863人の多くの方にご来場いただき、子どもたちの作品を見ていただきました。「素晴らしい絵が多いです。」「色彩豊かですね。」「子どもたちの感性はすごいですね。」等々の感想をいただきました。

最終日には多くの保護者の参加をいただき、表彰式を行いました。入賞者に会長よりひとりひとりに賞状が手渡され、作品と共に



宮城県知事賞(小6)



宮城県知事賞(中3)



仙台市長賞(小4)



仙台市長賞(中1)



入賞おめでとうございます！

記念撮影をし、柴田審査委員長より、入賞者への心のこもった講評をいただきました。

「来年もまた出品します。」と言ってくれた小学2年の女の子の言葉が嬉しかったです。(原 一代 記)

**東北ブロック・ユネスコ活動研究会
岩手大会in遠野**

2019/10/19～20



東北ブロック大会は民話のふる里遠野で、10月19日～20日に開催されました。

プログラムは「特別講演―チベット声楽家バイマーヤンジン氏」「記念講演―遠野物語と地域文化の継承」「プロジェクト未来遺産活動紹介」。豊かな自然に囲まれ、時間がゆっくり流れる遠野で、学校・地域・行政が一体となった地域文化伝承や産業継承が息づき、「郷土愛」「草の根運動」の真骨頂を見たとき強く感じました。当協会からは青年部2名と役員6名が参加しました。以下に、青年部の仲海渡さんの感想を紹介します。

「東北ブロック・ユネスコ活動研究会に参加して、多種多様なプログラムがあったなかでも最も印象に残っているのは、特別講演をしてくださったチベットの声楽家バイマーヤンジンさんの講演でした。生まれ育ったチベットの現状がどれほどのものか、チベットと日本、その両方で生活を送ったことがあるヤンジンさんだからこその話を聞くことができました。教育がままならない現状、子供でさえも学校に行くことができず働かないと暮らしていけない現実、日本で何不自由なく暮らしている自分にとっては印象に残る話ばかりでした。また、この講演を聴いて、私たちが日本で何も不便なく暮らしていること、今自分が大学に行き自分の興味ある分野の勉強ができていくのがどれくらい幸せなのかを実感しました。」(加藤 記)

**仙台リハビリテーション専門学校
学園祭収益金
今年もご寄付いただきました**

2019/11/6

仙台北学園仙台リハビリテーション専門学校の学園祭実行委員長 根本彩菜さん、副実行委員長 小和田帆佳さんと大本理事長さん、遠藤理事さん、根本事務長さんが来訪し、10月に開催した学園祭での売上金50,450円をご寄附下さいました。仙台北学園からの学園祭ご寄附は4回目になります。有難うございました。今年の宮城子どもキャンプでは仙台北学園の1学年学生さん3名がスタッフ応援で参加し、職員3名もキャンプの激励に訪問して下さいました。さらにこちらからも青年部3名が仙台北学園学園祭に参加し、ブースを開いてユネスコ青年部の紹介をするなどお互いの交流が進んでいます。(千田 記)

仙台ユネスコ活動報告会・交歓会

2019/12/18



年末恒例の活動報告会・交歓会が会員有志と各界でご活躍の方々合わせて60数名のご参加のもと開催されました。松坂副会長の司会進行のもと、見上

会長の開会挨拶では、中村前会長から引継いでの6ヶ月間の活動状況や日本ユネスコ協会連盟の役員改選で新体制となったこと等、今後の多岐にわたる活動の抱負についての話がありました。

活動報告会では内藤副会長からこれまでの活動についての紹介、特に中学生ユネスコカレッジを始めたことやESDとSDGsについて一般社会であまり理解されていないこと等に触れながら、今後も民間ユネスコ運動の柱として活動していくことが報告されました。

次に青年部のスタッフから今年度の活動としてユネスコ子どもキャンプや沖縄研修での青年部活動について報告がありました。

最後に協会のHPについて赤塚吉雄参与が今年度大幅な改良を行い、見やすく活動時事が遅滞なく更新される内容としたことが報告されました。(千葉 記)

**第1回ユネスコスクール
北海道・東北ブロック大会 報告**

2019/11/15

北海道と東北地域のユネスコスクールによる、持続可能な社会の構築に向けた課題解決・探求型学習発表会が昨秋11月開催されました。グローバル教育推進プロジェクトの辰野まどか氏の講演・ユネスコスクールの実践発表とポスターセッションと内容の濃いプログラムでした。尚ポスターセッション参加校の中から、「水素による持続可能なまちづくり」について研究発表した富谷高校に仙台ユネスコ協会会長賞が授与されました。当協会からは見上会長を始め8名が参加、その一人中嶋真佐子参与の感想を紹介いたします。

「辰野氏の講演は、海外留学に送り出した若者が、言語と共に情意を交わせる人格に成長していく姿は嬉しい報告となった。ESDに取り組むスクールの子どもからも、フェアトレードとの出会い・古紙リサイクルの各国対比・仙台の食について等、良く調べ考えていた。救荒草木を発表した子供たちとは対話が弾んだ。地に足の着いた視点で、人類の生活・在り方を見直し実践している子供達、一人一人の心の中に優劣なく互いに支え合う喜びを祈った。」(加藤 記)

青年部だより

ユネスコ青年全国大会参加



2019年11月16日～17日、2020年1月18日～19日に日本ユネスコ協会 評議員会、および、青年意見交換会に参加してきました。

評議員会へは青年評議員の東北ブロック代表として、特に11月のときには今後東北ブロックでの青年活動の現状把握、そして活発化を目指していきたいことを東北ブロックの評議員の方々へ伝え、賛同を頂きました。また、評議員会の翌日に行われる青年意見交換会では、青年評議員と全国青

年連絡組織（全国の青年会員のための事務局組織）の役員とで全国の青年活動の情報共有、活動方針や日本ユネスコ協会連盟への要望などについて話し合いました。ユネスコスクールやSDGsから青年に対しての期待感が高まっているのを感じる反面、東北ブロックでは青年会員が少ない現状もあります。今の時代だからこそユネスコの理念を若者に広めていくことが重要だと考え、引き続き邁進していきたいと思います。

全国の青年活動の年一回の活動報告会の役割を担う青年全国大会（岐阜）へ、仙台ユネスコ協会からは入江氏と私が参加をして来ました。入江氏も私も実行委員なので、仙台ユネスコ協会から一般参加者を出すことは出来ないのですが、今年は東北ブロックの青年活動の活発化を目指し積極的に郡山次世代ユネスコ協会とのつながりを作って来たことが功を奏し、郡山次世代ユネスコ協会から9名も参加して頂きました。

今回の青年全国大会はテーマを設けず、参加者が地元を持って帰れる情報を提供し、各ユネスコ協会から青年を送り出す意味のあるものにしていきたいという意図で計画をしました。様々なユネスコ協会の青年の参考事例や課題共有を、一方的な講義だけではなくワークショップや対談などを通して学ぶことを中心にしました。各地、様々な工夫をした活動をしている中、しっかりとユネスコの理念に根差した活動をしていることも感じられました。

（青年部 中谷祐太 記）

第1回中学生ユネスコカレッジ



仙台ユネスコ協会青年部の新しい試みとして、中学生を対象としたイベント、中学生ユネスコカレッジを開催しました。第1回目となる今回は、7名の参加となりました。前々から子どもキャンプに参加していた子が4名、今回ユネスコのイベントに初めて参加した子が3名でした。参加した中

学生7名と青年部で、戦争についてのグループワークや日本文化の体験としてしめ縄作りをしました。

戦争についてのグループワークでは、平和ハンバーガーという今後平和に向かっていくために必要なことをハンバーガーの具材に当てはめていく、ということをやりました。中学生が、平和について身近な争いごとなどから多種多様なことを考えていて、自分達が刺激を受けました。

しめ縄作りでは日本独特の正月飾りのしめ縄の飾る意味を学び、その後にしめ縄作りを体験しました。初めて作る中学生達や青年部もとても苦戦していましたが、こういう伝統的な技術の重要性を実感でき、良い体験ができました。

今回のことを踏まえて、第2回はさらにより良いものにしていきたいと思います。

（仲 海渡 記）

“11枚の書きそんじハガキでひとりごと月学校に” ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。



書きそんじた郵便ハガキをご寄付ください。送れなかった63円ハガキは1枚につき58円の募金に替えることができ、11枚あつまれば、カンボジアではひとりごと月学校に通えます。ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。

会員募集 あなたも参加しませんか!

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初めての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ちしています!

団体会員(一口) 年会費	20,000円
個人会員(一口) 年会費	5,000円
青年部会員(一口) 年会費	2,000円

仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	99
個人会員	176
青年部会員	18
合計	293

(1月末現在)

【編集委員】

- 松坂 宏造 小泉知加子
- 赤塚 吉雄 伊藤 律子
- 岩山 浩一 菊池 健一
- 佐藤 皇季 千葉 雅保

【編集後記】

仙台ユネスコ会報462号をお届けします。10月から1月までの活動報告をまとめました。世界平和と防災プロジェクトを始め、ユネスコ子ども絵画展を今年も東北電力ビルで開催することができました。仙台ユネスコ活動報告会・交歓会では50名以上の会員が集まりました。仙台ユネスコ協会は一人ひとりが思いやりの活動をしています。お仲間に加わっていっしょに活動しませんか? お問い合わせは事務局まで。

(仙台ユネスコ会報編集長 小泉知加子)